

アメリカ

海外事情

Overseas Language and Culture Course

本学の科目「海外事情」は夏期短期海外留学であり、提携校公認の単位付き海外語学研修です。
実際に海外へ赴き、本学と国際交流協定を結んでいる海外の学校において語学研修を行うとともにその国の文化や歴史などを体験することによってグローバルに活躍する人材を育成します。

アメリカ「レイク ワシントン インスティテュート オブ テクノロジー (LWIT)」への留学

英語を身につけ、グローバルな視野を。

基礎的英語力をさらに実践的な場で運用できるように、英語圏の国アメリカで短期間の集中訓練を実施します。午前中はチームに分かれての語学の勉強や、ゲームを交えての英会話授業、午後からはLWITの多彩なセミナーに参加するなど、様々なアプローチから英語力を養っていきます。授業の理解力を上げるには、英語力だけではなく、アメリカの地理や文化に関する背景的な知識も確認しておく必要があります。さらにシアトル市内にある世界的企業(マイクロソフト社、ボーイング社など)の見学も盛り込まれており、参加学生のグローバルに活躍する人材へのモチベーションアップにつなげることを目標としています。

アメリカの最先端ITに学ぼう。

留学先のLWITはIT分野において専門性の高いスキルを身につけ、企業の即戦力につながるプログラムが充実しています。世界のITに触れるこの貴重な機会は、学生一人ひとりにとって大きな刺激となるはずです。



開講学部：経営情報学部／情報メディア学部／医療情報学部	
種別：選択	配当年次：1・2・3・4年
単位数：2単位	開催時期：夏期集中
評価：研修(「海外事情(アメリカ)」・2単位)の評価は、研修先での成績と、受講生が本学担当教員に提出するレポートにより総合的に判断する。	
留学先：レイク ワシントン インスティテュート オブ テクノロジー (LWIT) ／11605 132nd Avenue NE Kirkland, WA98034	
電話：(425)-739-8100	FAX：(425)-739-8110
日程：8月上旬～下旬(約23日間を予定)	
申込期間：5月下旬	参加人数：20名
参加資格：本学で英語を履修している全学生及び通信教育部の正科生B	
参加費用：約430,000円※ (そのほか、授業料は北海道情報大学が補助)	

※渡航費、滞在費(ホームステイ代)、海外旅行傷害保険料などを含む概算金額です。

そのほか、自分の小遣いなどが必要です。

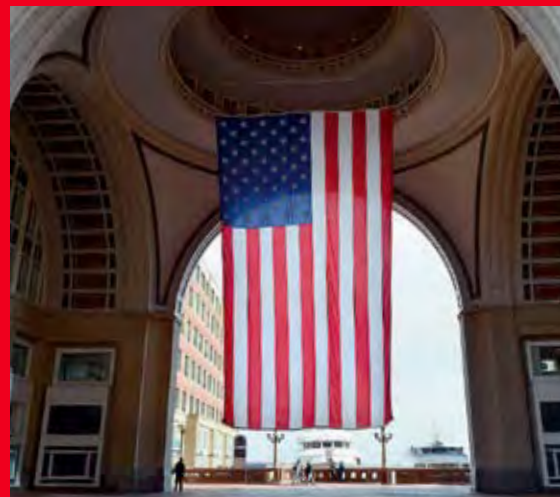
※上記はすべて平成25年度の内容となっています。何卒ご了承ください。

国際交流の歩み



アメリカ編

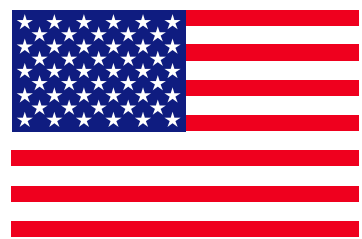
- 2002年 アメリカ編の夏期短期留学スタート。
- 2004年 初の長期留学の実現。
UCSCから教授を招いての本学での特別講演。
- 2005年 国際フォーラム'05「IT人材育成をめぐって」の開催。
UCSC40周年記念式典への参加。
- 2006年 学生たちの強い要望によって、20日前後だった留学期間が1ヶ月へと延長。
- 2007年 男子学生が単身で初の春期短期留学に参加。
- 2009年 2009年、両大学理事長および学長による「LWTCとHIUにおける協力協定」が締結。
第7回 アメリカへの短期留学がLWTCで実現。
- 2011年 LWTCがレイク ワシントン インスティテュート オブ テクノロジー (LWIT:Lake Washington Institute of Technology)に改名。



アメリカへの海外事情は、カリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)から始まりました。のびのびとした環境での語学研修と、サンフランシスコ、サンノゼ、ヨセミテ国立公園などへの観光やショートトリップ。たくさんの思い出と成長を胸に、アメリカでの国際交流を果たしました。毎年、数多くの短期留学生を送り出してきましたが、2008年のリーマンショック以来のアメリカ経済危機に、大きな打撃を受けたカリフォルニア州が教育分野における予算を圧縮。この

経済措置によって、残念ながら国際教育事業部が廃止となりました。
6回を数えたUCSCへの短期留学。その経験を糧に、次なる夏期短期留学先として適切であると候補に挙がったのが、レイク ワシントン インスティテュート オブ テクノロジー((LWIT:Lake Washington Institute of Technology)当時、レイク ワシントン テクニカル カレッジ(LWTC:Lake Washington Technical College))です。2009年5月、早速、本学より調査団がLWTCを訪問。LWTC

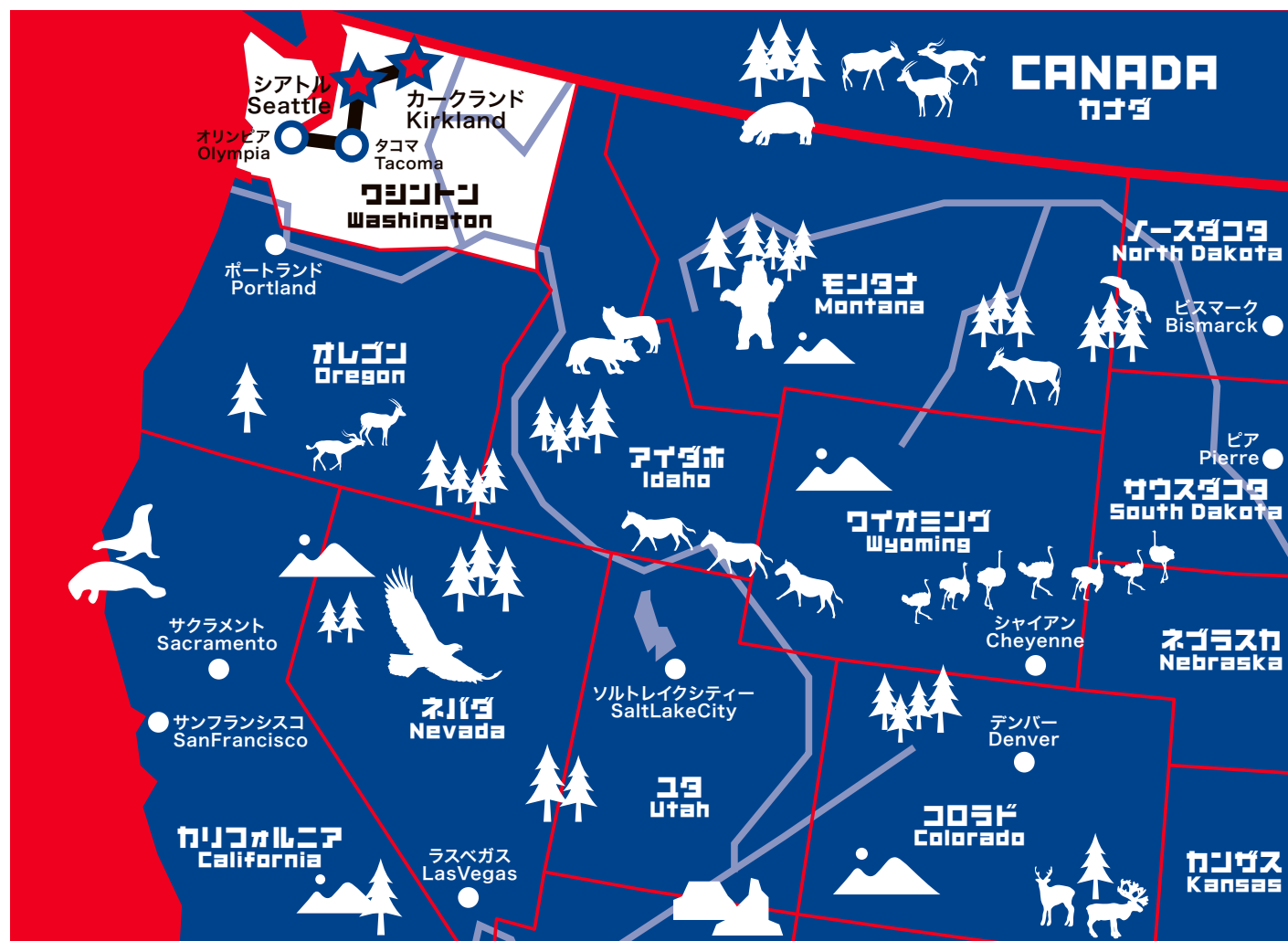
側から、本学とUCSCとの今までの国際交流実績を高く評価され、「2009年夏期短期留学に関する覚書」を結ぶ運びとなりました。そして、2009年8月20日、両大学理事長および学長による「LWTCとHIUにおける協力協定」が締結され、無事に第7回となるアメリカへの短期留学がLWTCで実現することとなったのです。なお9回目となる2011年度は18名、10回目となる2012年度は21名、11回目となる2013年度は11名という多数の参加が実現しました。



AMERICA

面積は日本の25倍！大都会と大自然が共存する。

アメリカ合衆国は50州からなる連邦国で、面積は約962万8,000キロ平方メートルという日本の約25倍もの大きさがあります。人口は約3億1,390万人であり、各州が自治権を持ち、地域によって雰囲気の違いがあります。民族構成は白人が約72%、アフリカ系約13%、アジア系が5%弱、アメリカの先住民が1%などで成り立っています。



カークランドってどんな街？

LWITがあるカークランド(Kirkland)はアメリカ合衆国ワシントン州キング郡の、人口が50,000人程度の街です。近年日本にも進出しているコストコの創業地としても有名であり、1987年から1996年まで本社があった街としても知られています。自然豊かであり、気温も8月で平均20度～25度、また雨の日が少なく、夏期短期留学の時期は大変過ごしやすい気候です。小さな街ではありますが多くの飲食店や娯楽施設、ショッピングモールがあり、大都市シアトルまでは車で1時間程度です。

シアトルってどんな街？

シアトル市は、北アメリカ西海岸の最北に位置するワシントン州にあり、経済や産業で独自の発展を遂げ、マイクロソフト社、アマゾン、任天堂アメリカ、コストコ、スターバックス、タリーズコーヒーなど、世界的企業の本拠地を有する州としてその名を馳せています。そんなシアトル市は、アメリカ太平洋岸北西部最大の都市で、人口約58万人の7割以上を白人が占める街。夏は涼しく、冬も温暖な住みやすい気候で、豊富な森林資源を利用した紙・パルプ工業が主要な産業であり、アメリカ合衆国トップクラスの国際貿易港です。

レイク ワシントン インスティテュート オブ テクノロジー (LWIT) の 特長

1949年に創立された公立のカレッジで、アメリカ・ワシントン州シアトル市から約16km東に位置する、閑静な街カークランドにあります。インターナショナル部門に重点を置いて多くの留学生を受け入れているため、海外からの学生に対するサポートシステムが充実しています。LWITの一番の特長は、質の高い英語の語学プログラムが受けられるだけでなく、現在の雇用状況に合ったキャリアトレーニングができること。このトレーニングは専門的かつ技術的



なもので、企業における即戦力を養うことに力を入れています。特にIT分野が充実していますから、その分野における特定のスキル修得と向上をめざす人にはおススメのカレッジと言えるでしょう。校内にはジムもあり、勉強の合間にフィットネスも楽しめます。また、自然に溢れた美しいカークランドは、シアトル市からも近く、ショッピングや観光に気軽に出かけられるところも魅力です。

LWIT 担当者からのメッセージ



Ms. Myung L. Park

Executive Director, R&G/ International Programs

こちらに英語を学びに来て、私達と一緒にアメリカ文化を体験しませんか。レイク ワシントン インスティテュート オブ テクノロジー (LWIT) では、短期特別集中英語講座が開講されています。この講座ではアメリカの学生と接する機会がたくさん設けられていて、シアトルのたくさんの見どころを巡るツアーも用意されています。この夏期講座は皆さんの英語の実践的会話能力を高めることを目標としています。この講座を担当する英語の専門講師達は英語学習を通じて、皆さんが自分の持つ能力を最大限に引き出してほしいと考えています。学生達は学部が主催する特別セミナーに参加し、美しいワシントン州周辺を巡る多くの社会見学にも参加しています。これにはセイフコ・フィールドでのマリナーズの試合観戦やマイクロソフト社やボーイングといった企業の見学、有名なパイク・プレイス・マーケットやシアトルのダウンタウン、レーニア山見学等たくさんのプログラムが組み込まれています。この素晴らしいプログラムに皆様をご招待し、LWITを既に訪れている多くの学生の輪に加わってくださることを願っています。



アクティビティーズ

思う存分アメリカを楽しむ!

週末はホームステイ先の家族とのアクティビティがたくさん!ぜひ仲良くなって色々な体験を楽しんでください。また平日の放課後にもLWITが用意したアクティビティに参加する日も。どちらも思い切り楽しんで。Don't be shy!



英語研修

本場の英会話を習得しよう!
8/13 ▶ 8/30

徹底した少人数制での英語語学研修。机に座ってばかりの授業ばかりじゃなく、時には演劇やドラマの一部を演じたり、在校生と熱く語ったり・・・日本ではなかなか味わえない刺激的な授業が繰り広げられます。

語学・会話授業

意見が求められることが多いアメリカの授業。積極性も磨かれます。

自由時間

午後のプログラムセミナーが無い日はみんなでシアトル見学にでかけることが多い。慣れてきたらグループで散策してみよう!

プログラムセミナー

LIWTの特徴でもあるプログラムセミナー。いろいろなことにチャレンジしよう!

1日のスケジュール

起床・朝食

英語研修

lunchtime

プログラムセミナー又はアクティビティ

ホームステイ先へ帰宅



留学 AFTER

ネイティブの発音や言葉の早さに慣れておくこと。

事前に英語の対策をしていたのですが、現地の人たちと話そうとしても、本物の英語には太刀打ちできず、というのが正直なところ。ネイティブの発音や言葉の早さに慣れる勉強を、ふだんからしておくことが大切だと思います。留学する国の文化や習慣の基本も予習しておいてください。



自分たちの力で見聞を広げる!

アメリカでは、学校が終わった後に友だちと知らない場所を探したり、買い物に出かけたりして、日々の生活をフルに楽しみました。目的地を決め、交通機関を調べ、ときどき迷っては街の人に道を尋ねながら、自分たちの力で見聞を広げることができました。どんなときでも、何をするにも、コミュニケーションは不可欠です。実践で使える英語力をがっちり身につけていればと、つくづく思い知らされました。

アメリカ おもいで逸品

シアトルといえばスタバ! 1号店はいつも混んでいて入るのが大変。お店の前では多くのパフォーマーが観光客たちを楽しませている。



海外での時間を もっと有意義に過ごしたい。

たとえコミュニケーションに難があっても、留学する価値はあります。そこで得られる体験は、ほかでは決してできないものだからです。もう一度みっちり英語を勉強して、海外での時間をもっと有意義に過ごしたいと考えています。

体当たりでコミュニケーション。

ある程度は英語を理解できる力をつけてから留学に臨むつもりでした。でも、実際にはその決意もむなしい感じだったのですが…(笑)。とはいえ、まったくコミュニケーションがとれないわけではなく、言葉が少しくらいヘンでも気にせずに、体当たりで向かっていけば十分に意思疎通ができました。もちろん、英会話能力をしっかり鍛えておくに越したことはない、これから留学する方はきちんと勉強してください。



アメリカ おもいで逸品

マンガが大好きなボクは、楽しみながら英語を学ぶため、アメコミ、日本マンガの海外版で、さらに英語を身近に感じることができました!



日本に対する意識も高まりました。

留学中に会った人たちに、日本をもっとよく知ってもらおうと思い、日本の歴史や文化に関する知識を深めるように努めました。そこで痛感したのは、自分の生まれた国について海外の方々に正しく説明できるだけの教養が足りないということ。アメリカ行きの機会を得て、日本を見直す意識も高まりました。

やってみれば意外にカンタン!

言うまでもなく、海外では自分を知っている人はほとんどいません。言葉に自信があってもなくても、自分から飛び込んでいくしかないということです。でも、やってみれば意外にカンタン。知っているだけの英単語とジェスチャーで、現地の人々とすぐに仲良くなれますよ!





アメリカ引率教員のメッセージ TEACHERS' MESSAGE

シアトル郊外にあるLWITでは、落ち着いた雰囲気、英語研修や大学の特色あるプログラムにふれることができます。午後には用意された近郊の名所を見学することができます。ボーイング社の巨大な工場やマイクロソフトの見学、マリナーズ観戦など楽しいイベントが目白押しです。シアトルや近郊の都市への交通の便が良く、パスカードが貸し出されるので移動はたいへん便利です。ホームステイも地元の家族と交流が持て、人生最高の夏休みになることでしょう。



経営情報学部／先端経営学科
教授 竹内 典彦

アメリカのマック、ハンバーガーでっかいっしょ？アメリカ人はみんなはっきりと物事を言うんだね。アメリカって、自由？怖い？あなたは、アメリカについて、どういうイメージを抱いていますか？気になりますか？国際化、国際理解など、よく耳に入る言葉でしょう。自分の生まれ育ったところを知ることとはとても良いことに思おうでしょう。ただし日本に居ながらだとなかなか実感できないのではないですか？では、実際、行ってみませんか？現場で、自分の五感で、アメリカとはどういうところか、経験してみませんか？観光スポットを訪ねるより、ごく普通の日々を過ごす、それこそが冒険です。あなたの英語力は今、充分です。短期留学で言語力を上げるより、自分でも英語で実践のコミュニケーションができると気付く、また、英語が好きになるきっかけとなる可能性も十分にあります。あとは、時間、お金、心との相談次第です。あなたが、アメリカでどういう経験してきたのか、聞けるのを、楽しみに待っています。



経営情報学部／先端経営学科
講師 ライアン ジョエル

コミュニケーションが
とれた！



TEDxHIU

Building Global Vision

Speakers(学年などについては開催時当時のものです)



通信教育部事務部長

安倍 隆



情報メディア学科4年

名越 慎



(株)日々代表取締役社長(第1期卒業生)

村上 悠馬



システム情報学科3年

櫻井 大樹



先端経営学科3年

西川 晃央



情報メディア学科4年

澤 翔子



先端経営学部 准教授

金間 大介

TEDとは

「価値あるアイデアを広める」ための非営利組織、それがTEDです。25年前にカリフォルニアで初のカンファレンスが開かれて以来、世界を牽引する多彩なトップランナーたちが、すぐれたアイデアを発表してきました。そのスピーチは、TED.comで閲覧できます。

TEDxとは

「価値あるアイデアを広める」体験を共有するために、世界各地で自主的に開かれるイベントが「TEDx」です。2009年から始まり、いまやTEDxイベントが開かれていない国はないといっても過言ではありません。世界中で、すでに10,000回以上開催されています。

TEDxUniversityとは

海外ではハーバード大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、オックスフォード大学で、日本では早稲田大学、慶応義塾大学、北海学園大学などで開催されてきました。そして国内9番目の「TEDxUniversity」の舞台となったのが、北海道情報大学(HIU)です。

TEDxHIUとは

“Building Global Vision”というテーマのもと、学生や教職員がそれぞれのVisionについて語ります。それを会場のみなさまと共有し、世界に発信することで、この機会にかかわったすべての人々の成長とイノベーションに少しでも役立つことを狙いとしています。



世界にまでとどくインパクトを生み出したい。

2013年9月29日、秋の気配を増しつつある日曜日。日本の大学では9番目となる「TEDxUniversity」が、北海道情報大学の松尾記念館講堂を会場に「TEDxHIU」として開催されました。この日の準備を主体となってすすめてきたのは、本学の学生スタッフたち。異文化交流会サークルの会長も務める川股 学さんを中心に、スタッフ一人ひとりがそれぞれの役割に熱い想いで

取り組んできました。

「TEDxHIU」のテーマは、“Building Global Vision”。たとえ小さなVisionでも、そのひとつひとつを重ねあわせれば、世界にまでとどくインパクトを生み出せるのではないか。そうした狙いが、このテーマに込められています。

印象的なオープニングムービーで幕を開けた「TEDxHIU」は、本学の学生5人と教職員2人による有意義なスピーチが展開され、たいへん充実した一日となりました。

かけがえのない「TEDxHIU」。この反響を次の機会へ。

最初のスピーカーは、本学職員の安倍 隆 通信教育部事務部長。四季折々の自然の恵みをもっと身近に感じ、それを楽しみながら生きる大切さに気づかせてくださいました。スピーカーの名越 慎さんと櫻井大樹さんは、挫折からの再起と今後への展望をそれぞれの体験から得た新たな発見をもとに語ってくれました。また、西川晃央さんのスピーチにも、社会人から大学生になった経歴をもつからこそその視点が

あり、澤 翔子さんの発表からは、思い切ってチャレンジする尊さを学ぶことができました。そして、最後を飾ったのは、本学経営情報学部の金間大介准教授。誰もが秘めている創造性をより豊かにトレーニングする方法について、楽しくお話してくださいました。

初めての開催となった「TEDxHIU」は、7人のスピーカーや運営にあたったスタッフはもちろん、来場していただいたみなさんにとって、かけがえのない機会となりました。この反響を今後につなげていくために、次回に向けた準備がすでに始まっています。

TEDxHIU Organizer



情報メディア学科
川股 学

